

かたおか自慢 子ども新聞

区り会会
地く部
岡づ議部
ち議化
笠ま協文

敬業館の謎(その一)

敬業館は、笠岡小学校の人ならみんな知っていると思つてしましたが、五年生以下は知らない人が多いうです。六年生は、お墓参りするから知つています。どこへあるか、何があるか、教室はどんななになっているかを調べて案内をします。

チシヤの木は 見ている

駅の正面に見えるお城の門のような校門を西に行くと、へいの向こうに見上げるような大きなチシヤの木があります。根もとの周りをくぐる回る回ったり、木のうしろにかくれたりして遊びました。夏の暑い日には、木のかげですずみました。西門を出てすみだ橋までまっすぐ行くと、左にトンネルの形をした大仙院の赤い門が見えます。変わった形の門です。



金平歯科医院前の横断歩道をわたつて少し行くと自転車道につきあたりです。昔は汽車が通つていたそうですがウソみたいな話です。お客さんが乗る本物の汽車は、こせん橋の下の公園にあります。左下の細い道のそばにあるガソリンスタンドの裏あたりに敬業館の赤い門が見えます。



門は柱が四本あります。右と左の柱に、横木が二本ずつ打つています。門には、二つとびらが付いていて内側が開くようになっています。笠岡小学校の正門は壁があるのに敬業館の門にはありません。とても小さい門で少し弱そうです。台風が心配です。(四年 馬越 紬未)

天国のような宿舎

門を入ると真正面に障子を四枚とりつけた部屋があります。天井がとても低い部屋で八畳のたたみが敷いています。天井は、木の板が張つていて部屋には柱が六本もあり、大きな木が横に通つています。厚みが二十センチで横の長さが二メートル近くあります。その横木に校長室のよりすこし小さい敬業館の看板がかかっています。



す。大きな横木を使っているから、昔の家は地震に強いそうです。周りには全部白い壁でした。白い壁だと部屋が明るくなるからだそうです。雨戸をしめると障子から入ってくる光だけでとても暗いです。昔の普通の家は、わらや板の屋根です。ガタガタの戸で、すさまじい風がどこからでも入ってくるのがあたりまえだったそうです。敬業館で学ぶ生徒は天国だったことでしょう。宿舎の横には、石で周りを囲んだ

井戸があります。井戸は、丸竹を集めてふたをしてい

ます。二か所紐であんであり、ふたを立てるとすだれのようなです。井戸の左には、水神様が祭つてあります。夏には、スイカ、トマト、マクワウリなどを井戸にいれて冷やし、おいしく食べたことでしょう。(四年 丸山 真由)

二本の石碑

敬業館はあった

裏に回ると石の柱が二本ありま



す。敬業館の先生をしていた小寺清先が、敬業館を建てるのを許してくれた早川代官に感謝して書いた文です。やはり敬業館はありました。



(編集) 後藤 藍里、馬越 紬未
(写真) 丸山 真由
(五年) 後藤 藍里